

**NSG**

**GROUP**

# NSG グループ

## 2021年3月期第2四半期決算報告

(2020年4月1日～ 2020年9月30日)

日本板硝子株式会社  
2020年11月5日

# 森 重樹

代表執行役社長兼CEO

# 楠瀬 玲子

執行役常務 CFO

# クレメンス・ミラー

代表執行役副社長兼COO

# 目次

1. 2021年3月期第2四半期 決算概要
2. 2021年3月期第2四半期 事業状況
3. 2021年3月期業績予想
4. 緊急コスト削減プロジェクトと手元流動性の確保
5. 今後の見通しと事業構造改革
6. まとめ

# 連結損益計算書

Q2で大きく回復。コストダウン努力もあり、営業利益はCOVID関連個別開示項目後でも黒字転換

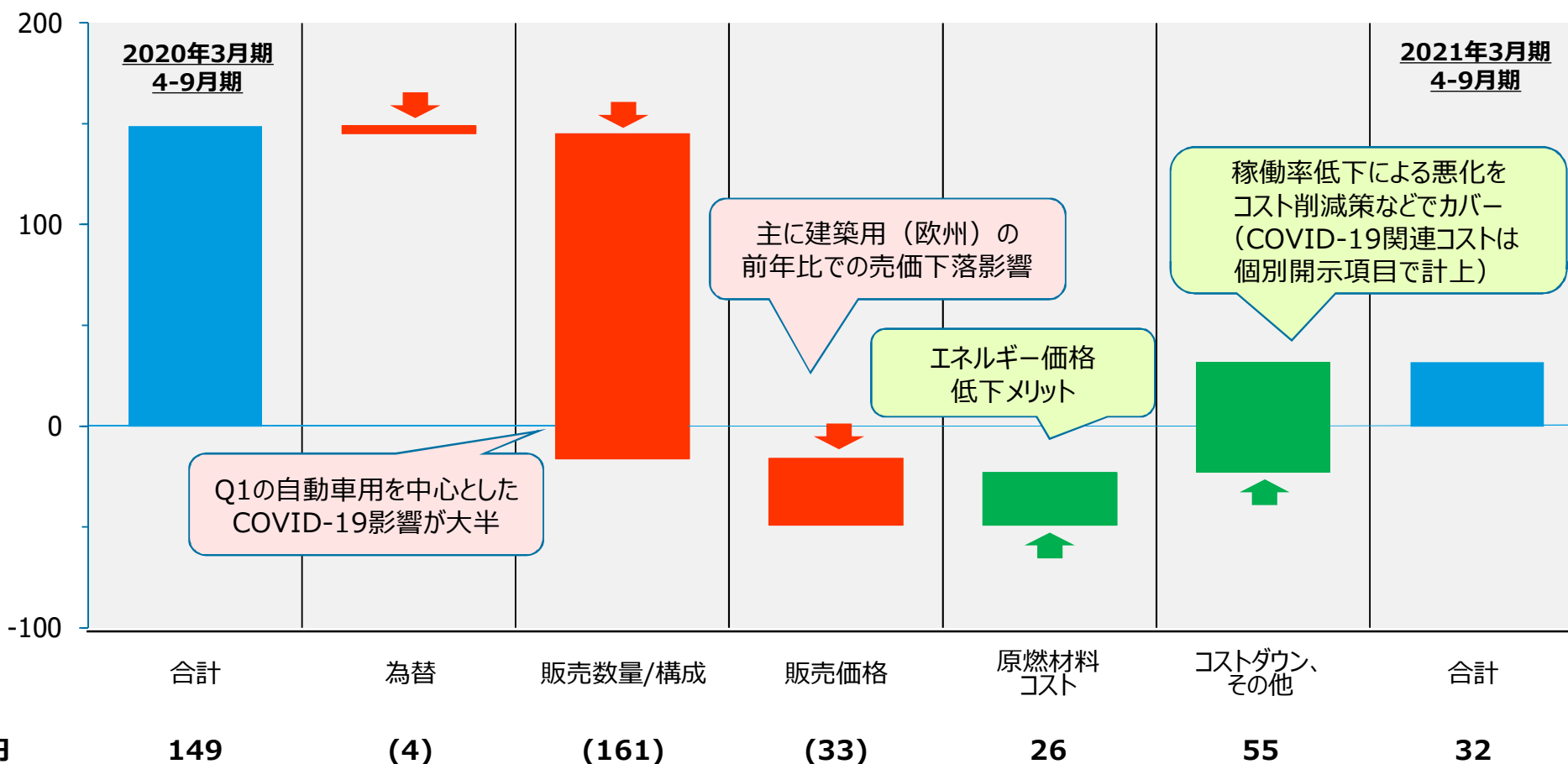
(億円)	2020年3月期			2021年3月期			累計増減
	4-6月期	7-9月期	累計	4-6月期	7-9月期	累計	
売上高	1,471	1,415	2,886	919	1,296	2,215	△671
営業利益	88	61	149	△6	38	32	△117
営業利益率	6.0%	4.3%	5.2%	-	2.9%	1.4%	
個別開示項目(COVID-19関連)	-	-	-	△115	△13	△128	
COVID-19関連個別開示項目後 営業利益 (△損失)	88	61	149	△121	25	△96	△245
個別開示項目(その他)	△6	△16	△22	-	△8	△8	
金融費用(純額)	△35	△28	△63	△24	△30	△54	
持分法による投資損益	5	3	8	△4	2	△2	
税引前利益 (△損失)	52	20	72	△149	△11	△160	△232
当期利益 (△損失)	31	△7	24	△165	△7	△172	△196
親会社所有者に帰属する当期利益 (△損失)	29	△10	19	△164	△9	△173	△192
EBITDA	175	142	317	61	127	188	△129

累計で営業黒字

COVID関連  
個別開示項目後で  
黒字転換

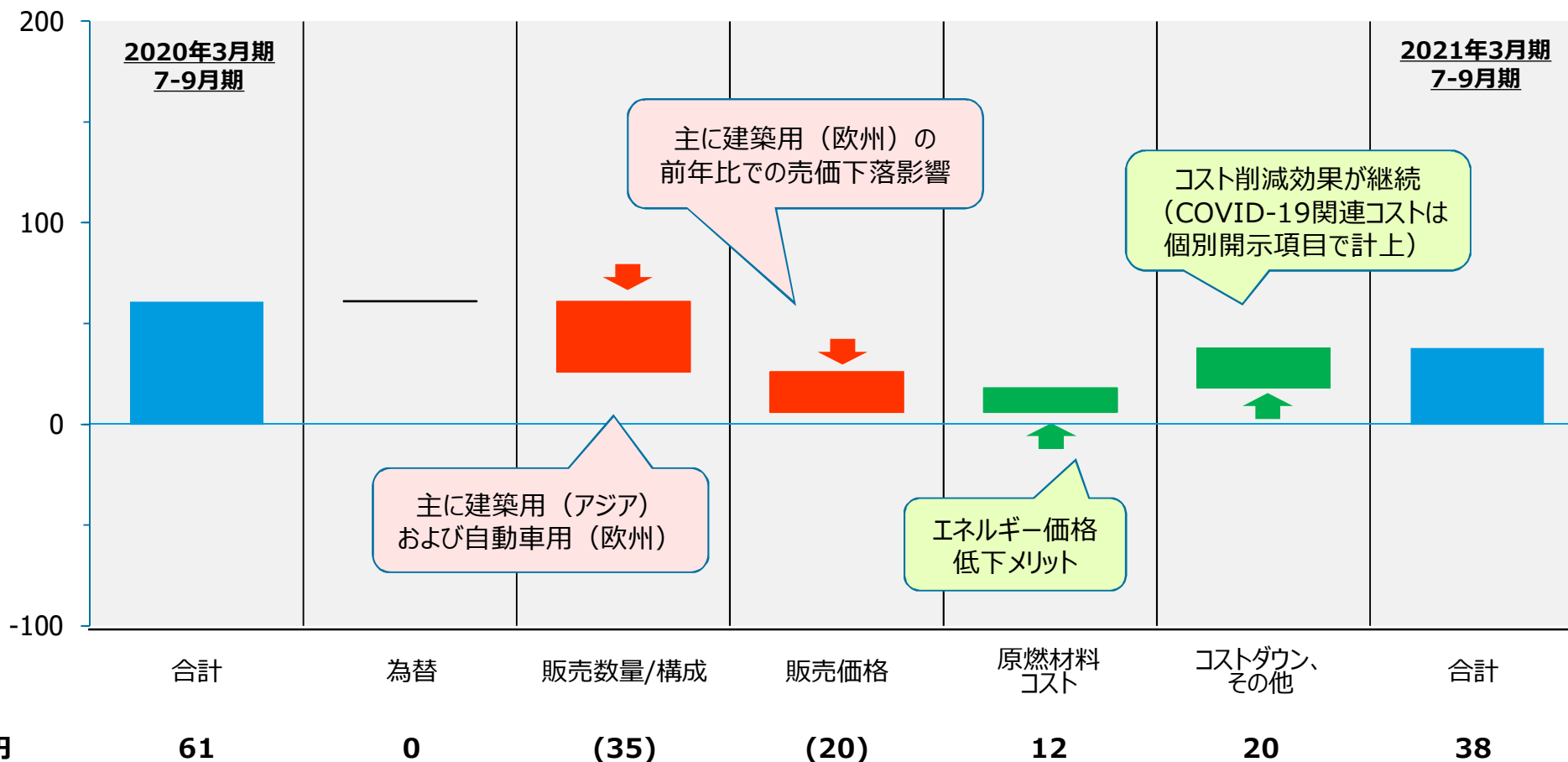
# 営業利益差異分析 (無形資産償却後 上期累計)

累計ではCOVID-19によるQ1の急激な数量減の影響を受ける



# 営業利益差異分析 (無形資産償却後 7-9月期)

数量減の影響は大幅に縮小。コストダウン効果は継続して発現



# 連結貸借対照表

Q1の純損失に加え、Q2の退職給付再評価影響で自己資本が減少

	(億円)		
	2020年3月末	2020年9月末	増減
<b>資産合計</b>	<b>7,652</b>	<b>7,576</b>	<b>△76</b>
非流動資産	5,411	5,447	+36
流動資産	2,241	2,129	△112
<b>負債合計</b>	<b>6,770</b>	<b>6,934</b>	<b>+164</b>
流動負債	2,004	2,224	+220
非流動負債	4,766	4,710	△56
<b>資本合計</b>	<b>882</b>	<b>642</b>	<b>△240</b>
親会社の所有者に帰属する持分	736	488	△248
<b>自己資本比率 (%)</b>	<b>9.6%</b>	<b>6.4%</b>	<b>△3.2%</b>
<b>ネット借入</b>	<b>3,902</b>	<b>4,280</b>	<b>+378</b>
<b>ネット借入/EBITDA</b>	<b>7.1x</b>	<b>10.2x</b>	
<b>ネット借入/純資産比率</b>	<b>4.4x</b>	<b>6.7x</b>	

棚卸資産の削減 (△90億円)

累計純損失 (△173億円) と退職給付債務再評価 (△78億円) が要因



# 連結キャッシュ・フロー計算書

損益の改善、コスト削減・キャッシュ節減活動が奏功し、  
Q2のフリー・キャッシュ・フローは大幅にプラス

(億円)

	2020年3月期			2021年3月期			累計増減
	4-6月期	7-9月期	累計	4-6月期	7-9月期	累計	
営業活動によるキャッシュ・フロー	△101	115	14	△306	228	△78	△92
（うち、運転資本の増減）	△194	59	△135	△221	155	△66	+69
投資活動によるキャッシュ・フロー	△167	△135	△302	△161	△103	△264	+38
（うち、有形固定資産の取得）	△191	△120	△311	△132	△95	△227	+84
<b>フリー・キャッシュ・フロー</b>	<b>△268</b>	<b>△20</b>	<b>△288</b>	<b>△467</b>	<b>125</b>	<b>△342</b>	<b>△54</b>
財務活動によるキャッシュ・フロー	148	86	234	399	△90	309	+75
現金及び現金同等物の増減	△120	66	△54	△68	35	△33	+21
現金及び現金同等物 期末残高			430			375	△55

運転資本改善プロジェクトの  
効果あり、営業キャッシュ・  
フローが好転

投資削減もフリー・キャッシュ・  
フロー改善に寄与

投資削減の効果

# セグメント情報

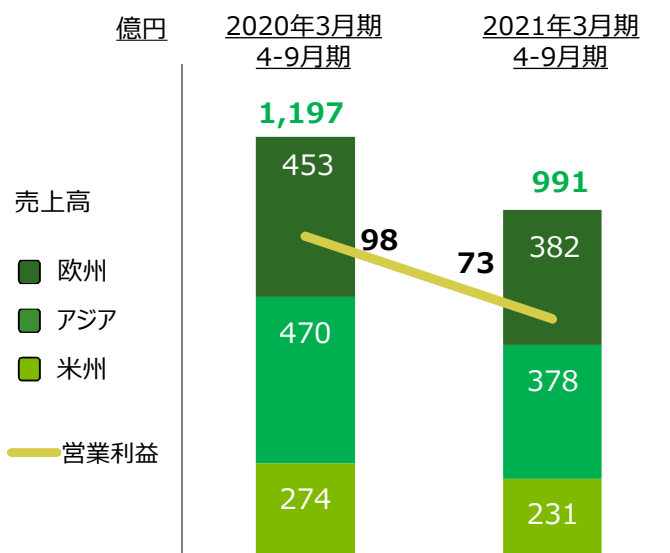


(億円)

	2020年3月期 4-9月期			2021年3月期 4-9月期			増減	
	売上高	%	営業利益	売上高	%	営業利益	売上高	営業利益
<b>建築用ガラス事業</b>	<b>1,197</b>	<b>41%</b>	<b>98</b>	<b>991</b>	<b>45%</b>	<b>73</b>	<b>△206</b>	<b>△25</b>
欧州	453	16%		382	17%		△71	
アジア	470	16%		378	17%		△92	
米州	274	9%		231	11%		△43	
<b>自動車用ガラス事業</b>	<b>1,482</b>	<b>52%</b>	<b>52</b>	<b>1,053</b>	<b>48%</b>	<b>△24</b>	<b>△429</b>	<b>△76</b>
欧州	629	22%		433	20%		△196	
アジア	346	12%		258	12%		△88	
米州	507	18%		362	16%		△145	
<b>高機能ガラス事業</b>	<b>202</b>	<b>7%</b>	<b>35</b>	<b>165</b>	<b>7%</b>	<b>25</b>	<b>△37</b>	<b>△10</b>
欧州	35	1%		27	1%		△8	
アジア	159	6%		133	6%		△26	
米州	8	0%		5	0%		△3	
<b>その他</b>	<b>5</b>	<b>0%</b>	<b>△36</b>	<b>6</b>	<b>0%</b>	<b>△42</b>	<b>+1</b>	<b>△6</b>
<b>合計</b>	<b>2,886</b>	<b>100%</b>	<b>149</b>	<b>2,215</b>	<b>100%</b>	<b>32</b>	<b>△671</b>	<b>△117</b>

# 建築用ガラス事業 2020年3月期第2四半期との比較

Q1の需要減の影響を受け、累計では減収減益だが、Q2は需要回復とコストダウン効果により増益。  
太陽電池パネル用ガラスの出荷は堅調



	2020年3月期			2021年3月期			累計 差異
	4-6月期	7-9月期	累計	4-6月期	7-9月期	累計	
売上高	599	598	1,197	449	542	991	△ 206
欧州	232	221	453	160	222	382	△ 71
アジア	224	246	470	192	186	378	△ 92
米州	143	131	274	97	134	231	△ 43
営業利益	57	41	98	27	46	73	△ 25

## 欧州 (累計: 減収・減益 Q2: 横ばい・横ばい)

- 販売価格は需要の回復に合わせてQ1対比で改善
- 生産再開による操業安定化とコスト削減により、収益性も改善

## アジア (累計: 減収・増益 Q2: 減収・増益)

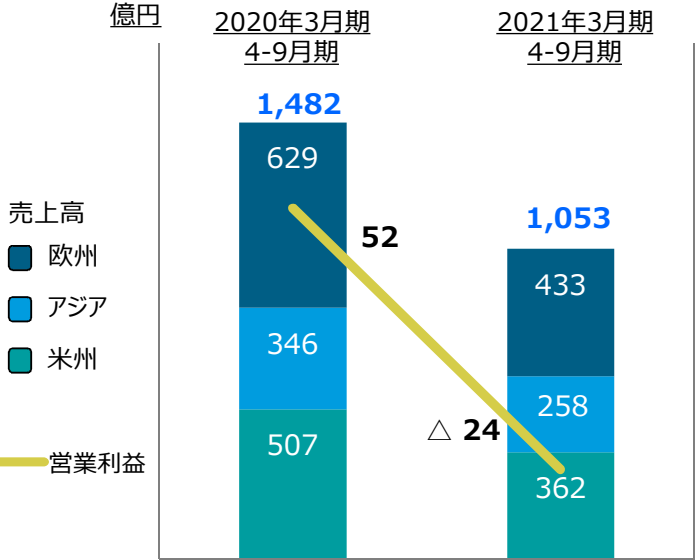
- 千葉、マレーシアのフロート窯休止による固定費削減効果等により利益は改善
- 太陽電池パネル用ガラスの出荷はCOVID-19影響をほぼ受けず堅調

## 米州 (累計: 減収・減益 Q2: 横ばい・増益)

- 北米は太陽電池パネル用ガラスを中心に出荷は堅調。新フロート窯は11月中旬に稼働予定
- 南米はQ2に入り、売上が前年並みに回復

# 自動車用ガラス事業 2020年3月期第2四半期との比較

累計では減収減益だが、6月以降は北米を筆頭に徐々に需要が回復しQ2では営業利益を確保



	2020年3月期			2021年3月期			累計 差異
	4-6月期	7-9月期	累計	4-6月期	7-9月期	累計	
売上高	768	714	1,482	387	666	1,053	△ 429
欧州	335	294	629	166	267	433	△ 196
アジア	174	172	346	99	159	258	△ 88
米州	259	248	507	122	240	362	△ 145
営業利益	40	12	52	△ 29	5	△ 24	△ 76

### 欧州 (累計: 減収・減益 Q2: 減収・減益)

- カーメーカーが第1四半期末にかけて生産を再開し、徐々に生産台数が増加。
- 補修用ガラスも外出制限の緩和後の市場の回復により改善

### アジア (累計: 減収・減益 Q2: 減収・減益)

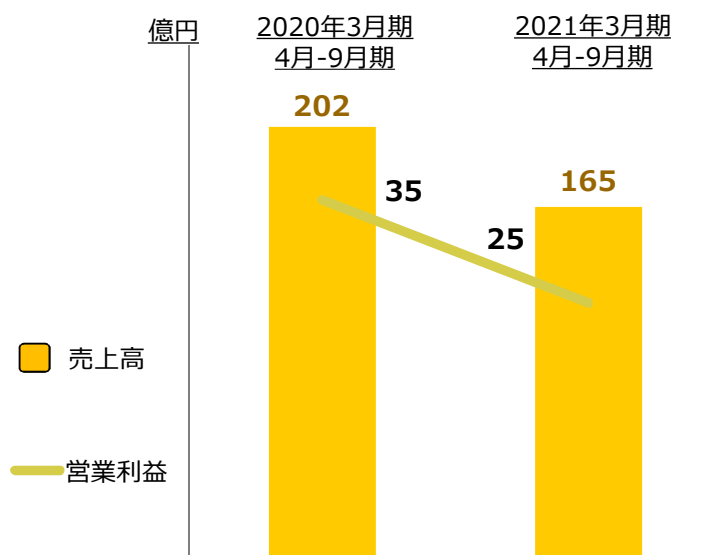
- Q1は低稼働で生産するも、Q2は生産台数増で操業度が改善

### 米州 (累計: 減収・減益 Q2: 減収・増益)

- Q2の北米売上は前年を超える水準に回復。カーメーカー在庫の回復や販売台数の増加により、自動車生産台数が復調
- 南米は依然低水準だが、回復基調

# 高機能ガラス事業 2020年3月期第2四半期との比較

COVID-19に伴う欧州自動車市場向け製品の低迷が継続。それ以外の製品は比較的安定



## 高機能ガラス事業 (累計: 減収・減益 Q2: 減収・減益)

- ファインガラスは、COVID-19影響による数量減は限定的
- プリンター用レンズは、需要軟化の中でも、在宅勤務需要により回復の兆し
- グラスコードは欧州自動車市場の影響が継続し減収減益
- バッテリーセパレーターの業績は比較的安定

	2020年3月期			2021年3月期			累計 差異
	4-6月期	7-9月期	累計	4-6月期	7-9月期	累計	
売上高	101	101	202	81	84	165	△ 37
営業利益	18	17	35	14	11	25	△ 10

# 2021年3月期業績予想の前提

	前回予想との差異
グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>売上高は、前回予想を大きく上回る需要回復を反映。営業利益も前回予想比での売上増に伴う改善と全社コストダウン活動の成果を反映。年度末までに売上は前年並み水準への戻りを想定</li> <li>ただし新型コロナウイルス感染の再拡大によって広範囲の外出制限が実施された場合は当社製品の需要に悪影響を及ぼす可能性</li> </ul>
建築用ガラス	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済活動の正常化に合わせ、安定的な需要を想定</li> <li>太陽電池パネル用ガラスは引き続き需要堅調だが、北米新窯稼働により立上げコスト発生の見込み</li> </ul>
自動車用ガラス	<ul style="list-style-type: none"> <li>各地での自動車販売動向に沿った堅調な回復を織り込み</li> <li>地域差はあるも下期は前年水準を上回る想定</li> </ul>
高機能ガラス	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品によりタイムラグはあるも概ね年度末までに前年並みレベルに回帰</li> </ul>

## 前期比売上高 四半期別: 各四半期とも前回想定に比べ改善

	Q1実績	Q2実績	Q3予想	Q4予想	年間
前回想定	-	△15%	△15%	△5%	△20%
最新想定	△38%	△8%	△5%	0%	△15%

## 前期比売上高 事業別: 全事業において改善

	H1実績	前回通期想定	最新通期想定
建築用	△17%	△15%	△10%
自動車用	△29%	△20%	△15%
高機能	△18%	△15%	△10%
グループ	△23%	△20%	△15%

# 連結業績予想

前回予想に対して大幅な改善を織り込み。当期損益予想は、個別開示項目を含めた損益見通しが明らかになった段階で改めて開示

(億円)

	2021年3月期 上期予想 (前回)	2021年3月期 上期実績	2021年3月期 下期予想 (前回)	2021年3月期 下期予想 (今回)	2021年3月期 通期予想 (前回)	2021年3月期 通期予想 (今回)	2020年3月期 通期実績
売上高	2,100	2,215	2,500	2,600	4,600	4,800	5,562
営業利益／(△損失)	-	32	-	60	-	90	212
COVID関連個別開示項目後 営業利益／(△損失)	△150	△96	△50	30	△200	△70	190
個別開示項目(その他)	△10	△8	-	-	-	-	△218
金融費用(純額)	△60	△54	-	-	-	-	△118
持分法による投資損益	0	△2	-	-	-	-	11
税引前利益／(△損失)	△220	△160	-	-	-	-	△135
当期利益／(△損失)	△240	△172	-	-	-	-	△175
親会社の所有者に帰属する 当期利益／(△損失)	△240	△173	-	-	-	-	△189

# 緊急コスト削減プロジェクトと手元流動性の確保

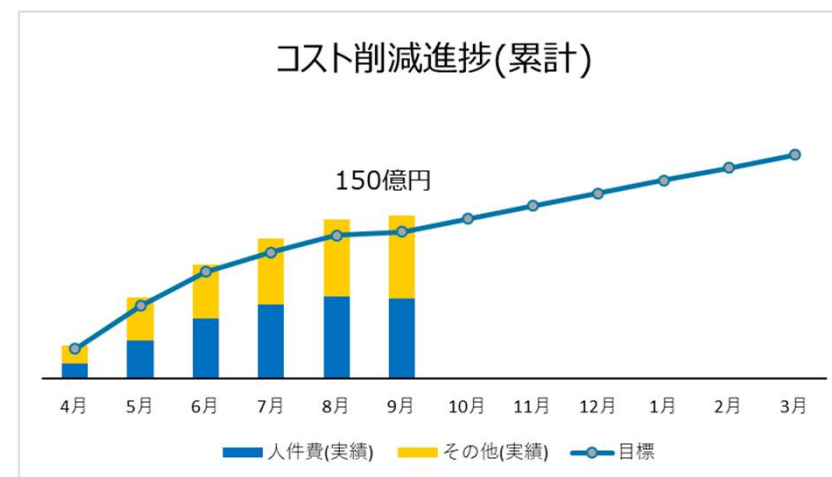
2021年3月期損益対策として緊急コスト削減プロジェクト継続。手元流動性は問題なし

## 緊急コスト削減プロジェクト

- Q1に引き続き人件費、経費を中心に取り組み継続  
Q2累計で前年対比約150億円のコスト削減

## 手元流動性は問題なし

- 売上回復・経費削減に加え戦略投資を含めた  
設備投資の削減、および運転資本の厳格管理を継続
- 9月末は現預金残405億円、未使用融資枠残748億円。  
6月末水準を維持





# 今後の見通しと事業方針

コロナ後の事業環境を見通し、厳しい状況認識と強い危機感に基づき、抜本的な事業構造改革に着手

**今後の見通し** – パンデミックから半年が経過し、見えてきた「コロナ後の世界」

- 自動車需要は2025年3月期までは以前の水準に戻らない一方、環境意識の高まりにより電動化が予想以上に進展
- 建築需要は大きな落ち込みは回避されるが、コモディティ化が加速。  
一方で環境関連（省エネや自然エネルギー活用など）、健康関連（感染症対策など）の需要が増進
- 全産業において、デジタルトランスフォーメーション（DX）が一気に進展

➡ 市場が求める価値を提供できるものだけが生き残る

## NSGグループの事業方針

- 現状の停滞から抜け出し、来期の黒字回復、さらにサステナブルな事業構造を構築していくため、今期下期から数年間を目途として、抜本的な事業構造改革に取り組む
- CEO直属のチーフ・トランスフォーメーション・オフィサー (CTrO) を推進役として全社横断的に展開

【主な実施事項】

- コスト構造改革
- 成長の加速
- 組織・業務改革

# 事業構造改革の実施

聖域なき改革を実行し、2022年3月期の黒字転換を目指す

## コスト構造改革

**2022年3月期に3桁億円のコスト改善効果を創出**

- 早期に安定した利益・キャッシュを創出できるコスト構造に変革
- 固定費の大幅削減（2,000人規模の人員削減）
- 生産・購買コストの抜本的改善

## 成長の加速

**今後の需要動向の変化を踏まえた事業ポートフォリオの変革**

- 太陽電池パネル用ガラスなど成長分野の早期利益貢献、VA化継続
- クリエイティブ・テクノロジー事業部門の新設による新規事業立ち上げのスピードアップ

## 組織・業務改革

**スピード感と緊張感のある経営体質への変革**

- 経営体制の見直し・管理階層の削減・権限移譲による意思決定と実行のスピードアップ
- 結果へのコミットとアカウントビリティの徹底

- 引き続き、資産・事業売却を含む資金・利益創出を検討・推進
- 事業構造改革を織り込んだ新中期経営計画は適宜公表予定

\* 個別案件の業績影響は判明し次第適宜公表予定

# CTrOの任命とトランスフォーメーション・チームの設置

## CEO直属で、事業構造改革（トランスフォーメーション）に取り組む

### チーフ・トランスフォーメーション・オフィサー (CTrO)

- 10月1日付で CEO直属の CTrOを任命
- 組織
  - CTrO配下のトランスフォーメーション・チームが個々の施策を推進  
全社横串で全体最適とスピードアップ
  - 生産・購買の本社統括機能もCTrO直属に変更
  - 欧州・アジア・米州に地域のトランスフォーメーション・ダイレクターを、事業部内には変革リーダーを任命
- ミッション：全社事業構造改革を主導
  - コスト構造改革
    - 固定費の大幅削減（人員削減の実行）
    - 生産・調達コストの抜本的改善
  - 業務プロセス・オペレーションの効率化

# まとめ

## 1. 第2四半期決算

- 新型コロナウイルス（COVID-19）によるQ1の需要急減の影響で累計では減収減益だが、Q2（7-9月期）は需要回復が当初想定を上回り、Q1対比で大幅に改善。コストダウン努力もあり、営業利益はCOVID関連個別開示項目後でも黒字転換
- Q1からの売上高の急回復は欧州、米州が牽引。太陽電池パネル用ガラスの出荷はCOVID-19影響をほぼ受けず堅調
- 損益の改善、コスト削減・キャッシュ節減活動が奏功し、Q2のフリー・キャッシュ・フローは大幅にプラス
- Q1の純損失に加え、Q2の退職給付再評価影響で自己資本が減少

## 2. 通期業績予想

- 当初想定を上回る需要回復とコストダウン活動の成果を踏まえ、通期業績予想（売上、営業利益）を見直し
- 事業、地域の差はあるも年度末までに売上は前年並み水準への回復を想定
- 通期の最終損益予想は、個別開示項目を含めた損益見通しが明らかになった段階で改めて開示

## 3. 今後の見通しと事業方針

- 2021年3月期損益対策として緊急コスト削減プロジェクト継続。手元流動性は問題なし
- コロナ後の事業環境を見通し、厳しい状況認識と強い危機感に基づき、抜本的な事業構造改革に着手。聖域なき改革を実行し、2022年3月期の黒字転換を目指す
- 10月にCTrOを任命。CEO直属チームで事業構造改革（トランスフォーメーション）に取り組む

# ご注意



当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場の経済環境及び競争環境、製品需給、為替・金利相場、原燃料市場環境、法規制の変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。

日本板硝子株式会社

# 補足資料

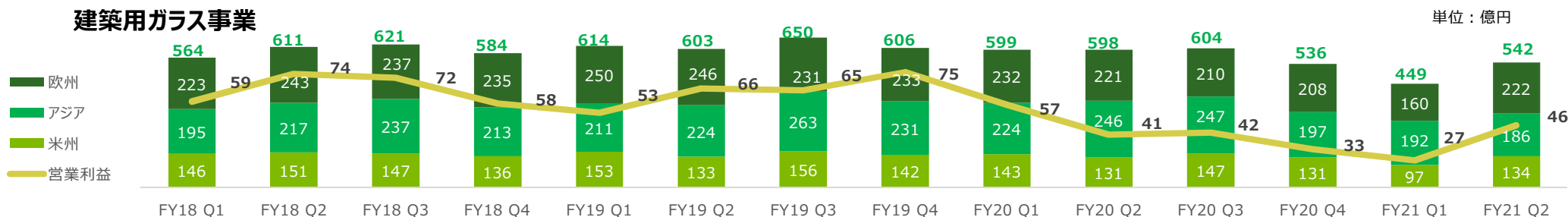
- 事業部門別・地域別業績 四半期別推移
- 四半期別セグメント情報
- 地域別業績
- 個別開示項目
- 為替レート
- 為替感応度
- 減価償却費・資本的支出・研究開発費
- 2020年6月～2020年10月 主なニュースリリース

# 事業部門別・地域別売上高及び営業利益

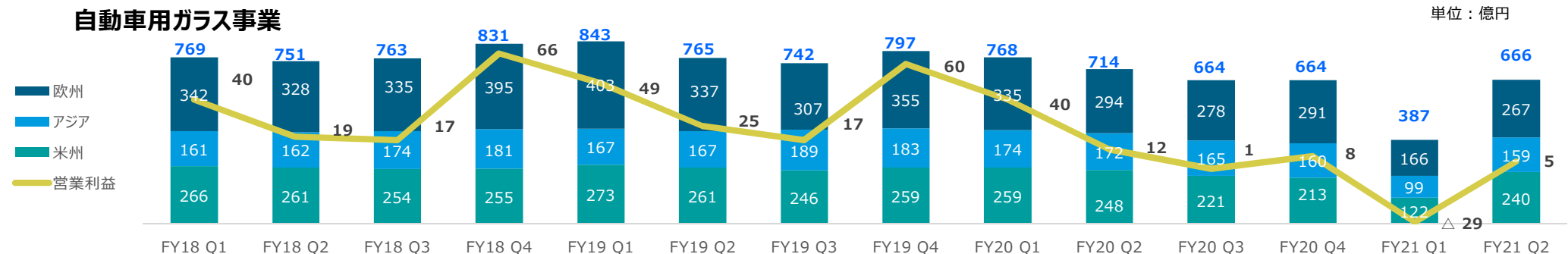
## 四半期別推移



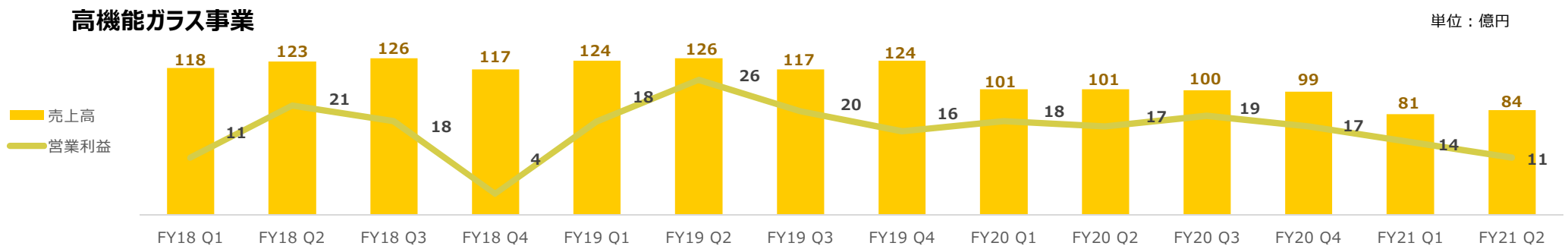
### 建築用ガラス事業



### 自動車用ガラス事業



### 高機能ガラス事業



# セグメント情報（売上高、営業利益）

(億円) **NSG**  
GROUP

	2020年3月期			2021年3月期			増減		
	4-6月期	7-9月期	累計	4-6月期	7-9月期	累計	4-6月期	7-9月期	累計
<b>売上高: 建築用ガラス</b>	<b>599</b>	<b>598</b>	<b>1,197</b>	<b>449</b>	<b>542</b>	<b>991</b>	△ <b>150</b>	△ <b>56</b>	△ <b>206</b>
欧州	232	221	453	160	222	382	△ 72	1	△ 71
アジア	224	246	470	192	186	378	△ 32	△ 60	△ 92
米州	143	131	274	97	134	231	△ 46	3	△ 43
<b>営業利益</b>	<b>57</b>	<b>41</b>	<b>98</b>	<b>27</b>	<b>46</b>	<b>73</b>	△ <b>30</b>	<b>5</b>	△ <b>25</b>
<b>売上高: 自動車用ガラス</b>	<b>768</b>	<b>714</b>	<b>1,482</b>	<b>387</b>	<b>666</b>	<b>1,053</b>	△ <b>381</b>	△ <b>48</b>	△ <b>429</b>
欧州	335	294	629	166	267	433	△ 169	△ 27	△ 196
アジア	174	172	346	99	159	258	△ 75	△ 13	△ 88
米州	259	248	507	122	240	362	△ 137	△ 8	△ 145
<b>営業利益</b>	<b>40</b>	<b>12</b>	<b>52</b>	△ <b>29</b>	<b>5</b>	△ <b>24</b>	△ <b>69</b>	△ <b>7</b>	△ <b>76</b>
<b>売上高: 高機能ガラス</b>	<b>101</b>	<b>101</b>	<b>202</b>	<b>81</b>	<b>84</b>	<b>165</b>	△ <b>20</b>	△ <b>17</b>	△ <b>37</b>
欧州	17	18	35	13	14	27	△ 4	△ 4	△ 8
アジア	80	79	159	65	68	133	△ 15	△ 11	△ 26
米州	4	4	8	3	2	5	△ 1	△ 2	△ 3
<b>営業利益</b>	<b>18</b>	<b>17</b>	<b>35</b>	<b>14</b>	<b>11</b>	<b>25</b>	△ <b>4</b>	△ <b>6</b>	△ <b>10</b>
<b>売上高: その他</b>	<b>3</b>	<b>2</b>	<b>5</b>	<b>2</b>	<b>4</b>	<b>6</b>	△ <b>1</b>	<b>2</b>	<b>1</b>
<b>営業利益</b>	△ <b>27</b>	△ <b>9</b>	△ <b>36</b>	△ <b>18</b>	△ <b>24</b>	△ <b>42</b>	<b>9</b>	△ <b>15</b>	△ <b>6</b>
<b>売上高: 合計</b>	<b>1,471</b>	<b>1,415</b>	<b>2,886</b>	<b>919</b>	<b>1,296</b>	<b>2,215</b>	△ <b>552</b>	△ <b>119</b>	△ <b>671</b>
<b>営業利益</b>	<b>88</b>	<b>61</b>	<b>149</b>	△ <b>6</b>	<b>38</b>	<b>32</b>	△ <b>94</b>	△ <b>23</b>	△ <b>117</b>



# 地域別売上高及び営業利益

(億円)

	2020年3月期 4-9月期			2021年3月期 4-9月期			増減	
	売上高	%	営業利益	売上高	%	営業利益	売上高	営業利益
欧州	1,117	39%	57	842	38%	8	△ 275	△ 49
アジア	975	34%	73	769	35%	36	△ 206	△ 37
米州	789	27%	55	598	27%	29	△ 191	△ 26
その他	5	0%	△36	6	0%	△41	+1	△5
合計	2,886	100%	149	2,215	100%	32	△671	△117

# 個別開示項目

(億円)

	2020年3月期 4-9月期	2021年3月期 4-9月期
<b>新型コロナウイルス感染症(COVID-19)関連</b>	—	<b>△128</b>
政府支援による収益*	—	21
設備休止等に係る費用*	—	△149
<b>その他</b>	<b>△22</b>	<b>△8</b>
子会社及びジョイント・ベンチャーの売却による利益	10	7
有形固定資産等の減損損失	△1	—
リストラクチャリング費用	△17	△11
設備休止に係る費用	△12	△2
係争案件の解決に係る費用	△2	△2

\* 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のまん延により影響を受ける直接費と回収不能な事業運営コスト、及びそれに関連して政府により支給される補助金を個別開示項目として計上。これらにはCOVID-19により生産活動に従事できない従業員への給与支払や休止設備の維持費用、施設の安全な作業環境整備のために生じた清掃費用などの直接費用を含む。（総費用 △149億円、政府支援による収益 21億円）

# 為替レート

## 期中平均レート

	2018年3月期				2019年3月期				2020年3月期				2021年3月期	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2
英ポンド	142	144	146	147	149	147	146	146	141	137	138	138	133	<b>135</b>
ユーロ	122	126	128	130	131	130	129	129	124	121	121	121	118	<b>121</b>
米ドル	111	112	111	111	110	111	111	111	109	109	109	109	107	<b>106</b>
ブラジル・リアル	34.6	35.0	34.8	34.4	30.4	29.3	29.3	29.4	28.0	27.6	27.2	26.4	19.9	<b>19.8</b>
アルゼンチン・ペソ	7.06	6.74	6.65	6.30	4.70	超インフレ会計の適用により、期末レートのみ使用								

## 期末レート

	2018年3月期				2019年3月期				2020年3月期				2021年3月期	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2
英ポンド	146	151	152	150	145	148	141	144	137	133	144	133	132	<b>135</b>
ユーロ	128	132	136	132	128	132	127	124	123	118	122	119	121	<b>124</b>
米ドル	112	113	113	106	111	113	111	111	108	108	109	108	107	<b>105</b>
ブラジル・リアル	34.0	35.4	33.9	32.1	28.6	28.2	28.5	28.3	28.3	26.0	27.1	20.8	19.9	<b>18.7</b>
アルゼンチン・ペソ	6.81	6.42	6.03	5.30	3.94	2.84	2.93	2.53	2.53	1.88	1.82	1.68	1.53	<b>1.38</b>

# 為替感応度

他の前提に変動がない条件で、為替レートが他の通貨に対して1%円高になった場合の影響額

	2019年3月期	2020年3月期
資本	33.0億円の減少	31.0億円の減少
当期利益/(損失)	[当期利益] 2.0億円の減少	[当期損失] 1.0億円の改善

# 減価償却費・資本的支出・研究開発費

(億円)

	2020年3月期 4-9月期	2021年3月期 4-9月期	2021年3月期 見通し
<b>減価償却費</b>	<b>172</b>	<b>174</b>	<b>370</b>
<b>資本的支出</b>	<b>315</b>	<b>175</b>	<b>370</b>
通常投資	112	54	220
戦略投資、他	203	121	150
<b>研究開発費</b>	<b>45</b>	<b>44</b>	<b>90</b>
建築用ガラス事業	13	12	
自動車用ガラス事業	13	12	
高機能ガラス事業	4	4	
その他	15	16	

# 2020年6月～10月 主なニュースリリース



2020年6月8日	抗ウイルスガラスの研究開発を加速
2020年 6月 11日	取締役および執行役の報酬の自主返上延長および上級管理職の給与の自主返上について
2020年6月23日	モバイル リアルタイム PCR 装置「PicoGene®(ピコジーン)PCR1100」 PCR 検査を解説する特設ページを日本語・英語の二か国語で公開
2020年6月25日	抗ウイルスガラス「ウイルスクリーン®」簡易衝立キットを開発
2020年7月3日	GMサプライヤー・オブ・ザ・イヤーを受賞
2020年7月8日	マシンビジョン向けSELFOC® Lens Array (SLA) 「SLA 5DG」発売開始について
2020年7月14日	JR東日本の新観光特急「サフィール踊り子」号に当社のガラスが採用
2020年7月28日	ガラス張りの全天候型イベント空間「新宿住友ビル・三角広場」に、合わせガラスを使用した 当社製Low-E複層ガラスが採用
2020年9月11日	トヨタ モーター ヨーロッパ社より達成賞を受賞
2020年10月8日	当社のヘッド・アップ・ディスプレイ対応ガラスがゼネラルモーターズの北米で2021年発売予定の 新型SUV車すべてに採用
2020年10月9日	防災防犯ガラス「ラミペーンシェルター™」の発売
2020年10月27日	抗ウイルスガラス「サニタイズ (SaniTise) 」販売開始

**NSG**

**GROUP**